

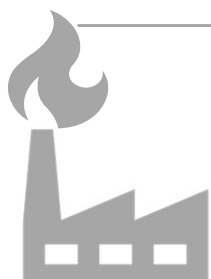
生産者、消費者のみなさまへ

2024年10月3日
製造許可の手続き開始

牛由来原料 (ビーフミール) の 鶏や豚用飼料への利用を 再開します

何が変わる？

今まで



ビーフミールは
主に焼却
していました

これから



ビーフミールを
鶏や豚用の飼料に利用できます
(牛用飼料には利用できません)

※牛由来原料を利用した飼料には
ミートボンミールと表示されます

国内での専門家による安全評価

2023年 農業資材審議会からの答申
10月

鶏や豚用の飼料に
ビーフミールを利用することは
適切と答申を受けました

2024年 食品安全委員会からの評価
5月

牛に対するリスク管理がこれまでと同様に
遵守されている限り、ビーフミールを
鶏や豚用の飼料に利用しても、人への
健康影響は無視できると評価されました

海外での利用状況

国際ルール※では、ビーフミールを鶏や豚用の飼料に使用することを禁止していません
我が国が畜産物の輸入を認めているアメリカ、カナダ、ブラジル等多くの国では、ビーフミールの
鶏や豚用飼料への使用を認めています

※国際獣疫事務局（WOAH）によるルール

ビーフミールの安全管理の方法



原料は、と畜検査を受けた安全な牛の部位を使用します

※BSEの原因とされる異常プリオンの蓄積しやすい部位は、と畜場等で除去・焼却されるため、飼料として利用されません

ビーフミールを使う鶏や豚用飼料の製造工程は、
牛用の工程と完全に分かれています

⇒ビーフミールが牛用飼料に混ざることはありません

ビーフミールを使った鶏や豚用飼料は、容器の専用化や注意事項
の表示等を行います

⇒誤って牛に給与されることを防止します

今後も、工場や農家への検査を行いBSE対策を続けます